

タイのバス&ボディケアブランド「BeNice」、生成AIライブコマースプラットフォーム「AnyLive」を活用し、TikTok Shopでの売上が2倍に

生成AIと人のライバーのハイブリッド配信によりオフピーク時間帯の視聴層にもリーチを拡大



AnyMind Group株式会社（読み：エニーマインドグループ、代表取締役CEO：十河 宏輔、以下「当社」）は、タイの大手消費財メーカー・NEO Corporate PCLが展開するボディケアブランド「BeNice（ビーナイス）」に対し、タイ国内におけるTikTok Shopでのライブコマース支援を実施しました。当社の生成AIライブコマースプラットフォーム「AnyLive」を活用し、TikTok Shopにおいて人とAIアバターを活用したハイブリッド型のライブ配信を実施。その結果、7日間で売上が2倍に向上しました。

■背景

タイのパーソナルケア市場において高い認知を誇るBeNiceは、これまで人間のライバーによるライブコマースを実施してきました。しかしタイではTikTok Shopの成長が著しく、競争が激化しており、エンゲージメントを維持しながら、配信の効率化やスケラビリティをどう確保するかが課題となっていました。

■施策と成果



AIライバーでの配信の様子

BeNiceはAnyLiveを導入し、ブランドに合わせて生成されたAIアバターを活用。人間のライバーと組み合わせたハイブリッド配信を行うことで、従来リーチが困難だった時間帯やユーザー層へのアプローチが可能となりました。

また、アニメーション背景などのクリエイティブ制作や、プロモーション施策の設計・実施においても当社が支援。こうした施策の結果、ライブ配信を開始した5月26日からの1週間で、前週比2倍の売上成長を実現しました。

- 実施国・地域：タイ
- 実施開始日：2025年5月26日
- 実施プラットフォーム：TikTok Shop
- 対象ブランド：BeNice／ボディケア・バス製品

■NEO Corporate Public Company Limited CMO、Sirisupa Atsanchon氏のコメント

BeNiceは、バス＆ボディケア製品の開発力だけでなく、デジタルマーケティングにおいても最先端を追求しています。今回の取り組みでは、AnyMind Groupの先進的なAI配信技術によって、これまでリーチが困難だった時間帯の消費者にもアプローチでき、結果として売上向上が実現しました。AnyLiveを活用することで、“日常に寄り添うブランド”としての価値をさらに高めることができたと感じています。

AnyMind Group株式会社
2025年6月26日

■AnyMind Group Managing Director of Thailand, the Philippines, and Cambodia
Siwat Vilassakdanontのコメント

当社は、AIを活用したビジネスの効率化と顧客価値の向上に注力しています。タイにおいてはAIを活用したライブコマースは、もはや“未来の施策”ではなく“今取り組むべき施策”です。BeNiceのようなブランドがいち早くその一歩を踏み出し、実際に成果を上げたことは、業界全体にとっても大きな意味をもつでしょう。AnyLiveは、誰もがライブコマースの可能性を最大限に生かせできるプラットフォームとして、今後も進化を続けてまいります。

■ 生成AIライブコマースプラットフォーム「AnyLive」



AnyLiveは、生成AIを搭載したライブコマースプラットフォームです。AIライバー（AIによってモデリング・生成されたアバター）を活用することで、多言語対応のライブ配信を実現します。各ブランドのイメージに合ったAIライバーを用いて、複数のプラットフォームや言語、地域に同時に配信することが可能です。配信やスクリプト作成もAIが行うため、従来よりも低コストでライブコマースを実現し、さらにデータ分析に基づく改善提案によって、継続的な売上成長を支援します。

URL：<https://anylive.jp/>

■AnyMind Groupについて



AnyMind Groupは、2016年にシンガポールで創業し、アジア市場を中心に15カ国・地域に拠点を構えるテクノロジーカンパニーです。EC・マーケティング・生産管理・物流などの領域で、11個のプラットフォームやソリューションを展開。プラットフォームとオペレーション支援を組み合わせた「BPaaS」（Business Process as a Service）モデルで提供することで、DX推進と業務の効率化・省人化を実現し、クライアントの事業成長に貢献します。東証グロース上場（証券コード：5027）。

URL：<https://anymindgroup.com/ja/>

【本件に関する報道・メディア関係者からのお問合せ先】

AnyMind Group株式会社

Communications（広報・PR）

メールアドレス：jp-pr@anymindgroup.com